

調 査 概 要

1. 調査目的

この調査は、区民が区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政を進めていくうえでの基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査項目

- | | |
|--------------|---------------|
| (1) 定住性 | (11) 男女共同参画 |
| (2) 区政 | (12) 健康づくり |
| (3) 職員応対 | (13) スポーツ |
| (4) 広報 | (14) たばこマナー |
| (5) 福祉と医療 | (15) 就職活動 |
| (6) 災害時の備え | (16) 都市デザイン |
| (7) 防犯 | (17) 交通 |
| (8) 地域コミュニティ | (18) せたがや Pay |
| (9) 文化活動 | (19) 図書館 |
| (10) 多文化共生 | |

3. 調査設計

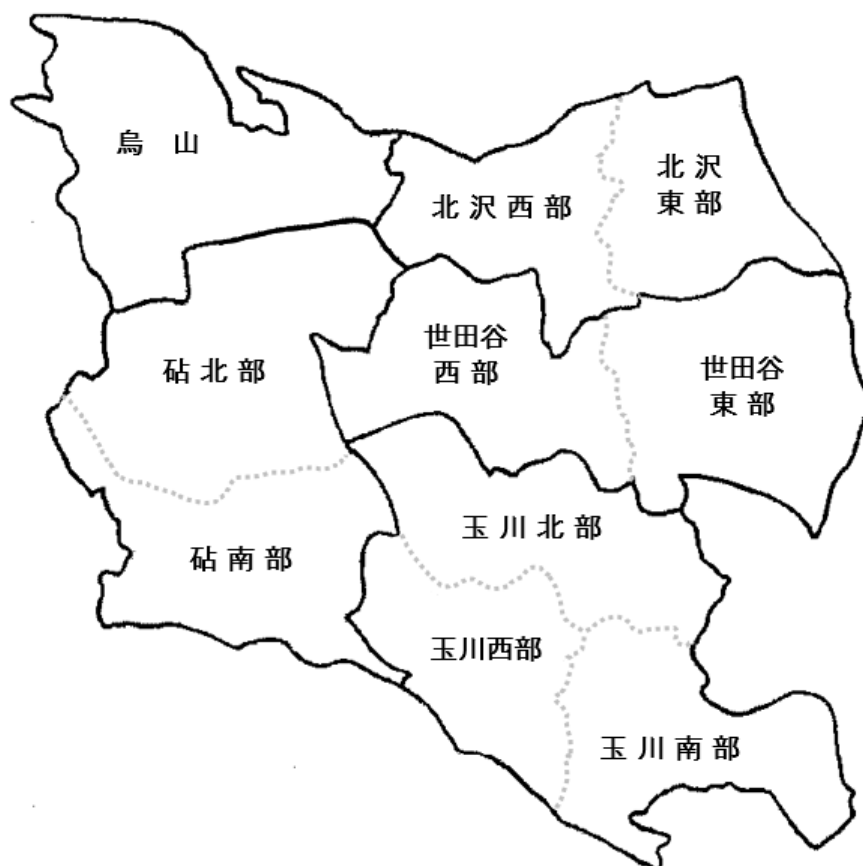
- | | |
|----------|------------------------------------|
| (1) 調査対象 | 世田谷区在住の満 15 歳以上の男女 |
| (2) 対象数 | 5,000 人（内訳／日本国籍 4,832 人、外国籍 168 人） |
| (3) 抽出方法 | 層化無作為抽出法 |
| (4) 調査方法 | 郵送配布・回収またはインターネットによる回答 |
| (5) 調査期間 | 令和 7 年 5 月 14 日～6 月 4 日 |
| (6) 調査機関 | 株式会社アダムスコミュニケーション |

4. 標本設計

- | | |
|----------|--------------------|
| (1) 母集団 | 世田谷区在住の満 15 歳以上の男女 |
| (2) 対象数 | 5,000 人 |
| (3) 抽出方法 | 層化無作為抽出法 |

【層 化】

世田谷区内を町丁目単位として、次の10地域に分類しそれぞれを層として計10層とした。



【標本数の配分】

各地域（層）における15歳以上の人口数（令和7年4月1日現在）により、5,000の標本数を配分した。

【抽 出】

1 地域ごとに「標本数の配分」にて設定した標本数を無作為抽出した。

地 域 別 町 丁 名 一 覧 表

地域	町丁目
世田谷東部	池尻 1～4丁目
	下馬 1～6丁目
	三宿 1～2丁目
	太子堂 1～5丁目
	三軒茶屋 1～2丁目
	野沢 1～4丁目
	若林 1～5丁目
	上馬 1～5丁目
	駒沢 1～2丁目
世田谷西部	世田谷 1～4丁目
	弦巻 1～5丁目
	宮坂 1～3丁目
	桜 1～3丁目
	経堂 1～5丁目
	桜丘 1～5丁目
北沢東部	北沢 1～5丁目
	代沢 1～5丁目
	大原 1～2丁目
	羽根木 1～2丁目
	代田 1～6丁目
北沢西部	松原 1～6丁目
	梅丘 1～3丁目
	豪徳寺 1～2丁目
	赤堤 1～5丁目
	桜上水 1～5丁目
玉川北部	駒沢公園
	駒沢 3～5丁目
	新町 1～3丁目
	深沢 1～8丁目
	桜新町 1～2丁目
	用賀 1～4丁目
	上用賀 1～6丁目
	玉川台 1～2丁目

地域	町丁目
玉川南部	奥沢 1～8丁目
	東玉川 1～2丁目
	玉川田園調布 1～2丁目
	等々力 1～8丁目
	尾山台 1～3丁目
	玉堤 1～2丁目
玉川西部	中町 1～5丁目
	野毛 1～3丁目
	瀬田 1～5丁目
	上野毛 1～4丁目
	玉川 1～4丁目
砧北部	船橋 1～7丁目
	千歳台 1～6丁目
	祖師谷 1～6丁目
	砧 1～8丁目
	成城 1～9丁目
砧南部	大蔵 1～6丁目
	砧公園
	岡本 1～3丁目
	鎌田 1～4丁目
	喜多見 1～9丁目
烏山	宇奈根 1～3丁目
	八幡山 1～3丁目
	南烏山 1～6丁目
	粕谷 1～4丁目
	北烏山 1～9丁目
	給田 1～5丁目
	上祖師谷 1～7丁目
	上北沢 1～5丁目

5. 回収結果

(1) 有効回収数 2,214 人 (内訳／日本国籍 2,185 人、外国籍 29 人)

(2) 有効回収率 44.3%

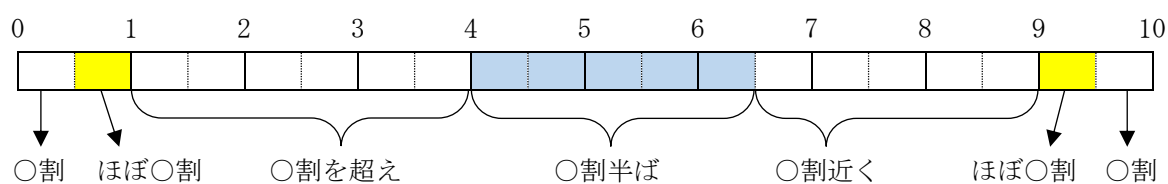
(内訳／郵送回収 1,377 通・62.2%、インターネット回収 837 通・37.8%)

回収結果内訳 (人口は令和 7 年 4 月 1 日現在)

			標本数A	15歳以上の人口数(母集団)	回収数B	回収率 C=B/A
全体			5,000	822,968	2,214	44.3%
地区	世田谷	東部	818	134,768	318	38.9%
		西部	573	94,314	279	48.7%
	北沢	東部	415	68,267	163	39.3%
		西部	440	72,451	184	41.8%
	玉川	北部	465	76,503	211	45.4%
		南部	430	70,760	207	48.1%
		西部	331	54,457	147	44.4%
	砧	北部	615	101,207	299	48.6%
		南部	260	42,715	118	45.4%
	烏山		653	107,526	268	41.0%
	無回答		-	-	20	-
性別×年齢	男性	計	2,331	385,471	865	37.1%
		10歳代・20歳代	497	79,674	100	20.1%
		30歳代	352	58,755	88	25.0%
		40歳代	408	67,853	117	28.7%
		50歳代	390	71,043	167	42.8%
		60歳代	318	48,682	174	54.7%
		70歳代	235	35,629	138	58.7%
		80歳以上	131	23,835	79	60.3%
		無回答	-	-	2	-
	女性	計	2,669	437,497	1,294	48.5%
		10歳代・20歳代	511	81,468	124	24.3%
		30歳代	371	64,839	143	38.5%
		40歳代	484	74,767	233	48.1%
		50歳代	474	77,508	270	57.0%
		60歳代	285	50,903	205	71.9%
		70歳代	274	43,114	181	66.1%
		80歳以上	270	44,898	135	50.0%
		無回答	-	-	3	-
	その他		-	-	16	-
	無回答		-	-	39	-

6. この報告書のみかた

- (1) 百分比は回答者数（該当設問においては該当者数）を 100%として算出し、本文及び図表の数字はすべて小数点第2位を四捨五入してある。したがって、比率の合計が必ずしも 100.0%にならない場合がある。同様に、複数の回答の合計値も図表の数字が一致しない場合がある。
- (2) 設問中に特に指示がない限り、回答は1つである。
- (3) 複数回答の設問は、すべての比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- (4) 設問に対して無回答があったクロス集計による分析では、各回答者数の合計が全体の回答者数と一致していない。
- (5) 基数が 30 に満たないデータについては参考値とする。
- (6) 数値を考察するにあたり、割合の表現は以下のとおりとしている。



(例：73.5%⇒7割を超え、38.3%⇒4割近く、59.5%⇒6割となる)

7. 標本誤差

下記は標本誤差算出の数式である。

(標本誤差)
$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団（世田谷区全体）
n=比率算出の基礎（サンプル数）
p=回答比率

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなすことができるので、標準誤差の範囲は、次の

標本誤差早見表のとおり求められる。

標 本 誤 差 早 見 表

回答比率(p) 基数(n)			10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後	
総数			2,214	± 1.3%	± 1.7%	± 1.9%	± 2.1%	± 2.1%
地域	世田谷	東部	318	± 3.4%	± 4.5%	± 5.1%	± 5.5%	± 5.6%
		西部	279	± 3.6%	± 4.8%	± 5.5%	± 5.9%	± 6.0%
	北沢	東部	163	± 4.7%	± 6.3%	± 7.2%	± 7.7%	± 7.8%
		西部	184	± 4.4%	± 5.9%	± 6.8%	± 7.2%	± 7.4%
	玉川	北部	211	± 4.1%	± 5.5%	± 6.3%	± 6.7%	± 6.9%
		南部	207	± 4.2%	± 5.6%	± 6.4%	± 6.8%	± 7.0%
		西部	147	± 4.9%	± 6.6%	± 7.6%	± 8.1%	± 8.2%
	砧	北部	299	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
		南部	118	± 5.5%	± 7.4%	± 8.4%	± 9.0%	± 9.2%
	烏 山		268	± 3.7%	± 4.9%	± 5.6%	± 6.0%	± 6.1%
性別	男 性		865	± 2.0%	± 2.7%	± 3.1%	± 3.3%	± 3.4%
	女 性		1,294	± 1.7%	± 2.2%	± 2.5%	± 2.7%	± 2.8%
年代	10・20歳代		228	± 4.0%	± 5.3%	± 6.1%	± 6.5%	± 6.6%
	30歳代		235	± 3.9%	± 5.2%	± 6.0%	± 6.4%	± 6.5%
	40歳代		355	± 3.2%	± 4.2%	± 4.9%	± 5.2%	± 5.3%
	50歳代		439	± 2.9%	± 3.8%	± 4.4%	± 4.7%	± 4.8%
	60歳代		380	± 3.1%	± 4.1%	± 4.7%	± 5.0%	± 5.1%
	70歳代		320	± 3.4%	± 4.5%	± 5.1%	± 5.5%	± 5.6%
	80歳以上		216	± 4.1%	± 5.4%	± 6.2%	± 6.7%	± 6.8%

回答比率(p) 基数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
n = 2,500 の場合	(2,500)	± 1.2%	± 1.6%	± 1.8%	± 2.0%	± 2.0%
n = 2,000 の場合	(2,000)	± 1.3%	± 1.8%	± 2.0%	± 2.2%	± 2.2%
n = 1,500 の場合	(1,500)	± 1.5%	± 2.1%	± 2.4%	± 2.5%	± 2.6%
n = 1,000 の場合	(1,000)	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
n = 800 の場合	(800)	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.5%	± 3.5%
n = 600 の場合	(600)	± 2.4%	± 3.3%	± 3.7%	± 4.0%	± 4.1%
n = 400 の場合	(400)	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
n = 200 の場合	(200)	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
n = 100 の場合	(100)	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%

(注) この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答数が 2,214 人であり、その設問の選択肢の回答比率が 40.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高で±2.1%である。」